

やすらぎ通信

第47号（平成26年10月1日） 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

神無月(かんなづき)

ちいさい秋みつけた

作詞 サトウハチロー 作曲 中田喜直

だれかさんが だれかさんが
だれかさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた
めかくし鬼さん 手のなる方へ
すましたお耳に かすかにしみた
よんでる口ぶえ もずの声
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた

(2番、3番略)

「天高く馬肥ゆる秋」という言葉に代表される秋、10月はまさにそのさ中にあたります。文字通り空気も澄み爽やかな気候であり万物が実る収穫期で何を食べても美味しく感じられ人々の活動もいきいきとなる季節です。ちなみに先に挙げたことわざは、昔、中国では騎馬民族の匈奴（きょうど）が収穫の秋となると大挙して略奪にやってくることへの警戒言葉としての意味のようでしたが、その心配のない今日の私たちには素直に秋をたたえる言葉として感じ取ってよいのでしょうか。

秋を象徴する言葉としては、このほか芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋などさまざまな常套句（語）があり、いずれも頭や身体活動を能動的にさせるような言葉が多いように感じられます。そしてまた、それらの活動は総じて動物的な生命を維持するための行動から離れ、ある意味人間的な言い換えれば文化的な活動を促しているようにも思えます。「人はパンのみで生きる者にあらず」とも言われますが、どうやら人間は物質的な満足だけではどうしても我慢できない欲張りな存在のようです（なお、この語源の新約聖書マタイ伝の意味はもっと宗教的です）。実りの秋を迎え1年のうちでは最も食糧の心配の少ないこの時期だからこそ本能的にその欲望が顕在化するのでしょうか。

それにしても何故このような空腹を満たすことにも子孫を残すことにも関係しない非生物的な活動へ私たちは心を動かされるのでしょうか。このお話を深追いするには、あまりに哲学的・宗教的で私の能力の域を超えますし紙面に限りがありますのでこれで撤退しますが、一つの可能性としては「自分はなぜここのにいるのか」を求める行動といえるのかもしれませんが。答えを得ることは大変難しい命題でしょうが、人にとって物心が付いた頃から寿命が果てる頃まで折々に心に浮かぶ疑問の一つだと思えます。この様な疑問を考え答えを求めようとするのが人間の特性であり進歩の源であると言えそうです。それが科学の推進や芸術として表現されることにより直接的ではないにしても自分の存在を認める生きがいとなったり、心の空腹を満たす糧となるのかもしれませんが。イソップの寓話のアリとキリギリスの話では夏の間一生懸命働いたアリが冬に豊かに暮らし、バイオリンを弾いて遊んでいたキリギリスが飢え死にしまう話も、もし人間だったらどちらか一方しかない生活はたまらなく索漠とした人生にしか思えないのではないのでしょうか（今年のはやり唄の、ありのままの自分になるの～♪だけではちょっと困りますね）。思索の秋です。おいしいものに舌鼓を打つことも楽しみですが、少し文化的（遊びや運動も含みます）な活動にも意識的に取り組まれ心の満腹感を楽しんでみられるのはいかがでしょうか。

さて、今月の節気は10月8日の寒露（かんろ）と23日の霜降（そうこう）です。いずれもあまり馴染みのない節気ですが、どちらもだんだんと秋が深まりゆく季節感を豊かに表わす言葉です。この最良の季節を思う存分に自分らしくお楽しみください。

【(新) ～地域の医療機関の皆様へ～

経カテーテル的大動脈弁植え込み術 (TAVI) の導入】

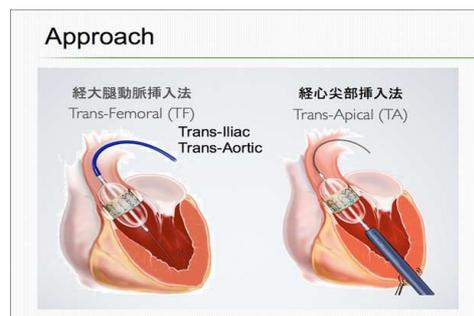
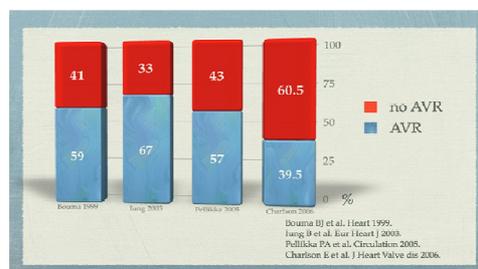
「人は血管とともに老いる」。19世紀末の内科医の言葉であります。21世紀に入った現在も血管病の脅威は衰えを知らず、血管だけにはとどまらず、動脈硬化からくる大動脈弁狭窄症 (Aortic valve stenosis, AS) も、近年、増加傾向であります。

大動脈弁狭窄症に対する治療は、大動脈弁置換術が標準治療で、成績も良好であります。すべての AS 患者が治療を受けているわけではありません。様々な合併症でハイリスクという理由であったり、高齢で体力的に自信が無く患者様自身が治療を拒否されたり、といった理由で、多くの AS 患者が治療を受けていませんでした。

そんな中、2002年に世界初の経カテーテル的大動脈弁植え込み術 (Transcatheter Aortic Valve Implantation, TAVI) が、フランスで Cribier 医師により施行されました。以降、圧倒的な低侵襲性で、ハイリスク患者群を対象とした治療法として確立されてきました。

本邦においては、2013年10月に、その手技が保険認可され、早期成績は、ハイリスク患者を対象としていながら、良好なものとなっております。新しい治療法であるため、遠隔期成績はまだ慎重な観察が必要であります。その低侵襲性から、これまで治療の機会が与えられなかった患者群で TAVI が施行されるようになってきております。TAVI は、新しい治療法であるため、安全に遂行するために関連学会協議会が定める厳格な施設基準、実施基準があります。また、周術期管理から手術手技まで良好なハートチームの構成が大きく結果に影響していると言われております。

当院では、経験豊富な心臓血管外科医、循環器内科医はもとより、心エコー医、麻酔科医、手術室・病棟看護師、臨床工学技師、放射線技師、CRC、理学療法士等でチームを構成し、総合的、多角的な視野で日々の診療にあたっており、大動脈疾患への低侵襲治療として、ステントグラフト治療を世界に先駆けて行って来た歴史があり、また、施設基準も十分に満たしていることから、この度、TAVI の導入を行うことといたしました。現在、ほぼ準備完了しており、近いうちに実施可能となります。



これまで治療を受けられず、なんとか内科的に維持されていた患者様にも、負担の少ない治療を提供することが可能となると見込まれますので、これまで以上に地域の先生方とは密に連携をとりながら、治療に当たっていきたくておりますので、何卒ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

低侵襲性心血管治療センター長 白川幸俊

【～地域の医療機関の皆様へ～呼吸器内科から一言】

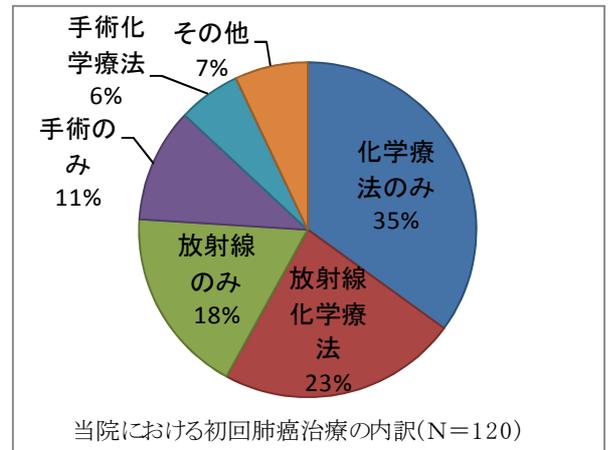
最近のデータによると、日本人の2人に1人が癌にかかり、3人に1人が癌でなくなる時代です。その中でも肺癌は死亡者数のトップの難治性癌のひとつです。

肺癌の治療方針決定には、肺癌の病理診断が重要になってきました。従来は小細胞肺癌とそれ以外の非小細胞肺癌の2種類の分類で十分でしたが、近年の検討により、一部の抗癌剤は、非小細胞肺癌のうち、扁平上皮癌以外の癌、特に腺癌により効くものが出てきています。また、分子標的治療薬の進歩で、特定の遺伝子の変異のある癌(EGFR, ALK)での分子標的治療薬の治療効果が高いことが解ってきました。

そのため、従来の気管支鏡に加えて、中枢型や末梢型の超音波気管支鏡を使用し、診断率の向上に努めています。

肺癌の治療には、抗癌剤、手術、放射線が挙げられますが、近年、複数の治療を加えた集学的治療が行われています(図参照)。当院には呼吸器内科、呼吸器外科、放射線診断科が揃っており、そこに画像診断科、病理科を加えた肺癌治療カンファレンス(Cancer Board)をもち、より良い治療を検討しています。

肺癌が疑われる患者さんがおられましたら、ご紹介よろしく申し上げます。



呼吸器内科主任部長 上野清伸

【～地域の医療機関の皆様へ～口腔外科より】

医科歯科連携で予防する骨代謝調整薬起因顎骨壊死について

骨代謝調整薬の副作用として、顎骨壊死・顎骨骨髓炎が数%の頻度で発症することが報告されています。これまでの報告では発症した骨壊死は難治性で根本的な治療法は確立されていません。顎骨壊死・顎骨骨髓炎の誘因として抜歯などの顎骨に対する外科的処置やう蝕、歯周病(歯槽膿漏)による口腔の不衛生が挙げられています。本薬剤の治療前に口腔清掃実施群、未実施群で顎骨壊死・顎骨骨髓炎発症頻度を検討した結果、口腔清掃未実施群で812例中27例(3.3%)が発症したのに対し、口腔清掃実施群では154例では1例(0.6%)であったと報告されています。また、歯科処置前に抗菌剤投与が行われた43例では発症無く、抗菌剤投与を受けなかった群では32例中8例に骨壊死がみられたとも報告されています。

骨代謝調整薬による顎骨壊死を予防するためには医科歯科連携の治療が欠かせません。具体的には骨代謝調整薬治療開始前に口腔内検査を行い、歯科治療を終了させて口腔内の状況を改善しておくことが最も重要です。また改善された口腔衛生状態を良好に保つためにも定期的な経過観察も欠かせません。更に、治療が開始された後に歯科治療が必要となった場合には、できる限り非侵襲的(抜歯などを避ける)な歯科

処置に限定する必要があり、治療時には適切な抗菌剤投与が早期に開始されることが重要となります。また一部の薬剤では休薬することで骨代謝が改善することから休薬の可否、休薬期間、代替え薬への変更など処方医との連携が必要です。

顎・口腔領域の診療を通じて、地域医療に貢献していきたいと存じますので、なにとぞよろしく御願い申し上げます。

歯科口腔外科主任部長 石原 修

【～地域の医療機関の皆様へ～

小児医療センターからのお知らせ：小児救急受入れ拡大のご案内

府立急性期・総合医療センター小児科をご支援いただき誠にありがとうございます。少し先送りになってはいますが、府市共同住吉小児医療センターの開設に向けて、“地域の患者さんを1次から3次まで受け入れる小児医療センター”を目指していきたいと考えております。

休日・夜間病診連携カードを導入しました

これは患者さんがかかりつけの先生を受診され、“今は大丈夫だけれども夜間や休日に病気が悪化するかもしれない”とかかりつけの先生が判断されたときに、かかりつけの先生から患者さんに渡されるカードです。このカードには病名と簡単な病状が書かれており、これを持って当センター時間外救急を受診されると、紹介患者さんと同じように小児科当直医が診療いたします。ただ、夜間や休日は小児科医が1-2人で対応しますので、カードをお持ちでも病状によってはお待ちいただくことがございますが、ご了承ください。

2013年12月よりこのカードを導入し、毎月約20名の小児患者さんがこのカードを持参して当センター時間外救急を受診されています。少しでも地域の患者さんの安心が得られるように、かかりつけの先生と連携を取って診療にあたりたいと考えています。

大阪府立急性期・総合医療センター 小児科 休日・夜間診療連携カード
様
平成 年 月 日 生
診断名:
病状・検査所見など:
<small>上記患者様は当院かかりつけの方です。 来院と診断された際には、紹介書等として対応下さるよう、お願いいたします。尚、その旨を病院にご返事いただければ、診療に関する情報を相互に提供することについて、患者様から許可をいただいております。</small>
有効期限 平成 年 月 日から5日間
登録医療機関名

小児重篤患者さん(小児内科疾患の3次救急)の受け入れを拡大しました

これまでも外傷や心肺停止の重篤な小児患者さんを当救命センターが受け入れてきました。

2014年5月より、小児救命救急で修練した小児科医を迎え、小児内科疾患の重篤患者さん、例えば 血漿交換や持続的血液透析が必要な患者さん、低体温療法を必要とする脳炎・脳症の患者さんなどにも受け入れを拡大し、当救命センターで小児科医と救急診療科医師とで集中治療を行います。

たとえ地域の小児患者さんが重篤な疾患にかかっても、自宅から近いところで十分な医療が受けられるように、当センターで小児重篤患者さんの受け入れ拡大をしています。

小児救急科部長 高野智子

【「医療相談」コールセンターのご利用を ―地域医療連携センター―】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

(年末年始、土・日・祝日除く)

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【診察予約変更センター 9診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の9診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科

皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科

神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費や外来での検査費用の概算を予めお知らせするサービスをしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター(やすらぎセンター)におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスも行っていきます。

今月の催し

【(新) すこやかセミナー「なるほど ザCT ～CTで拓がる驚異の世界～」】

日 時 10月9日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
講 師 画像診断科副技師長 魚谷宗司
参加費 無料

【(新) 骨髄バンク支援

「愛のかけはし」メンバーによる<秋のシャンソンコンサート>】

日 時 10月17日(金) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
主 催 医療サービス改善委員会

【(新) 相愛大学連携 第41回外来糖尿病教室

知って得する! 糖尿病との付き合い方】

日 時 10月22日(水) 午後2時～
場 所 本館1階 アトリウム
内 容 今年1番のトピックス
おしっこにブドウ糖を捨てて血糖を下げる SGLT2 阻害剤について
(糖尿病代謝内科主任部長 馬屋原 豊)
糖尿病の運動療法(リハビリテーション科理学療法士 松井未衣菜)
食品表示の見方(栄養管理室管理栄養士 笠井香織)
参加費 無料

【第34回相愛大学連携コンサート「ピアノアンサンブルで巡る世界一周音楽紀行」】

日 時 10月23日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
出 演 ピアノ演奏 植田味香子
橋元泉穂
参加費 無料

【(新) すこやかセミナー「日頃よくみかける子どもの外科疾患」】

日 時 10月24日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階 講堂



講師 小児外科主任部長 中村哲郎
参加費 無料

【(募集) 作品展 (コスモス会の開催と作品の募集について)】

今年も当センターとコスモス会の共催による作品展を10月27日から29日の間、本館3階講堂で開催する予定です。つきましては、出展作品を下記のとおり募集いたしますので、皆さん奮ってご応募ください。

応募資格 患者さんとその家族及び病院関係者
応募方法 出展ご希望の方は、当センター総務グループ(06-6692-1201内線2313)へお問い合わせください。
応募作品例 絵画、写真、書道、手芸ほか
作品受付日 10月27日(月)午前9時～10時
作品返却日 10月29日(水)午後4時～5時

【第13回病院ギャラリー企画展 須田剋太「街道をゆく」挿絵原画展

— 近江散歩 —】

『街道をゆく』は、司馬遼太郎氏が、1971年から1996年まで、25年以上にわたって週刊朝日に連載し、単行本にもなっている歴史紀行文学です。国内各地はもちろん、中国やモンゴル、さらには遠く南蛮(スペイン、ポルトガル)やオランダ、アイルランドをはじめ世界各地の街道も訪ね、司馬氏の洞察力に富んだ味わい深い文章により、その国や地域の歴史と風土を描いています。須田剋太は連載開始から1990年までの約20年間、司馬氏に同行してスケッチを重ね、「街道をゆく」の挿絵を制作しました。

それらの作品は、挿絵として各地の雰囲気や情景を伝え読者を楽しませるだけでなく、独特の画風で色彩豊かに描かれ、絵画作品としても優れたものとなっています。[大阪府立江之子島文化芸術創造センターホームページ内の解説文より抜粋]

今回は第12回に引き続き、須田剋太が描いた「街道をゆく」シリーズの中から『近江散歩』を紹介させていただきます。

(本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。)

開催期間 8月4日(月)～11月7日(金)まで
展示場所 本館2階 病院ギャラリー
展示作品 近江街道 28枚

【(予告) 森ノ宮医療大学連携事業

市民公開講座「予防・治療から社会復帰へのケア～最近の進歩～」

第3回「慢性腎臓病」(当センター林 晃正主任部長 講演参加)】

日時 11月2日(日) 午後1時30分～3時30分(受付開始午後1時)
場所 森ノ宮医療大学(大阪府大阪市住之江区)

内 容 基調講演「慢性腎臓病—診療の進歩」
(腎臓・高血圧内科主任部長 林 晃正)
講演1「慢性腎臓病の予防と看護」
(森ノ宮医療大学／保健医療学部 看護学科 講師 西村千年)
講演2「高血圧と鍼灸療法」
(森ノ宮医療大学／保健医療学部 鍼灸学科 教授 鍋田智之)
講演3「慢性腎臓病と理学療法」
(森ノ宮医療大学／保健医療学部 理学療法学科 講師 角田晃啓)
参加費 無料

**【(予告) 第14回病院ギャラリー企画展 須田剋太「街道をゆく」挿絵原画展
— 大徳寺散歩 — 】**

開催期間 11月10日(月)～2015年2月13日(金)まで
展示場所 本館2階 病院ギャラリー
展示作品 「街道をゆく」シリーズの中から『大徳寺散歩』28枚
※ 2014年11月13日(木)13時30分から作品説明会(約20分)を病院ギャラリーで開催いたしますのでご参加ください。

【(予告) すこやかセミナー「敗血症」】

日 時 11月13日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階 保健教室
講 師 救急診療科医長 松嶋麻子
参加費 無料



【(予告) 第27回万代・夢寄席「旭堂小二三」】

日 時 11月13日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
出 演 講談師 旭堂小二三
参加費 無料

【(予告) 第1回糖尿病フェスタ しつとこ! やつとこ! 糖尿病!!】

相愛大学とのコラボ第5弾! 糖尿病予防セミナーが変わります。第42回外来糖尿病教室として、第1回糖尿病フェスタを行います。楽しみながら糖尿病について学びましょう。記念品のプレゼントも予定しております。

事前の申し込みは不要ですので、皆様ぜひご参加ください。

日 時 11月15日(土) 午後1時30分～4時(午後1時開場)

場 所 本館 3 階講堂、通路、保健教室
参加費 無料

【(予告) すこやかセミナー「狭心症と心筋梗塞」】

日 時 11 月 28 日 (金) 午前 11 時～12 時
場 所 本館 3 階 講堂
講 師 心臓血管外科主任部長 石坂 透
参加費 無料

Topics



【 管理栄養士のコーナー 】 ～ちょっとおいしい話～

肌寒さを感じる季節になってきました。今回は、山形の郷土料理である「芋煮」を紹介いたします。季節の食材の里芋とキノコを使った食物繊維たっぷりの料理です。

《材料》	(4 人分)
里芋	400 g
◎塩	小さじ 1/2
板こんにゃく	100 g
お好みのキノコ (舞茸など)	100 g
長ねぎ	40 g
牛肉 (かたロース薄切りなど)	120 g
しょうゆ	大さじ 1 と 1/2
塩	小さじ 1/4
★ { だし汁	600 ml
酒	大さじ 1
みりん	大さじ 2

(1 人前) エネルギー : 215kcal たんぱく質 : 7.6g 脂質 : 11.5g 食塩相当量 : 1.3g
食物繊維 : 3.3g

《つくりかた》

- ① 里芋は皮をむいて、大きければ 2、3 つくらいに切る。◎の塩を里芋に振りかけてもみこむ。里芋を鍋に入れ沸騰するまで下ゆでし、水にとってぬめりをとる。
- ② 鍋に★の調味料と里芋を入れて、強火にかける。沸騰したら弱火にし、蓋をして 10 分煮る。
- ③ こんにゃくはゆでで、一口大になるようにちぎる。

- ④ キノコはほぐしておく。長ネギと牛肉は食べやすい大きさに切っておく。
- ⑤ ②の中にしょうゆと塩と残りの材料をすべて入れて、牛肉に火が通るまで煮たら出来上がり。
- ⑥ お好みで七味唐辛子をかける。

ゴボウ、豆腐、油揚げなどを入れても美味しくいただけます。
汁物は塩分が多くなりがちですので、塩分が気になる方は汁を残すようにしましょう。

栄養管理室 管理栄養士 貴志菜穂子

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラストの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 外来クラーク担当 梶原さんの巻】

私は9番外来の受付をしています。この外来には外科、形成外科、皮膚科があり、特に外科は消化器・呼吸器・乳腺・小児と専門の外来に分かれているので毎日たくさんのお患者さんが来院されます。

先日患者さんから「さっき講演していた先生に診察してもらうにはどうすればいいの。」と聞かれました。お話を聞いていると、「私も…」「私も…」と何人もの患者さんで受付が一杯になってしまいました。どうやら形成外科の先生の“下肢静脈瘤”の講演に出席された幾人かの患者さんが、その先生の診察を希望されていたようでした。間近で先生のお話を聞かれ、また先生が熱心にお話しされる表情などからきっと先生のお人柄や治療方針に共感されたのだらうと思いました。

受付担当者として私が出来ることは本当にわずかだとは思いますが、わたしも患者さんとお話をする時には、患者さんに気遣いを示せるように話し方や表情に気を付け、患者さんのお気持ちに寄り添える対応を心がけていきたいと思っています。

その他のお知らせ

【「急性期・総合医療センターの最新治療がわかる本」が出版中です！】

府民の皆さま向けに、当センターで行われている最新治療をご紹介する書籍を出版しました。当センターの医師や看護師らが、分かりやすく、簡潔に、しかも必要な情報はきちんと把握できるように執筆しています。



この本は、いわゆる医学書や診療ガイドブックではなく、健康なときから病気にかかったときまで、府民がよりよい治療を選択する際に役立つ健康情報を掲載しています。病気を理解し、よりよい治療を選択するための案内書としてご活用いただければ幸いです。

価 格：1,998 円（消費税 8%込）

◇当センター内のローソンや近隣の一般書店等で販売します。

◇当センター内のローソンでは、下記の方を対象に割引販売を実施します。

- ・当センターの診察券をレジで提示いただいた方
- ・当センターで開催されるイベント参加者にお配りする書籍の案内リーフ（割引券付き）をレジで提示いただいた方

割引価格：1,700 円（消費税 8%込）

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関は J-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。（ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。また、デビット機能が付与されていないカードもありますので、ご注意ください。）

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページの「メールマガジン申込み」からアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページの検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。